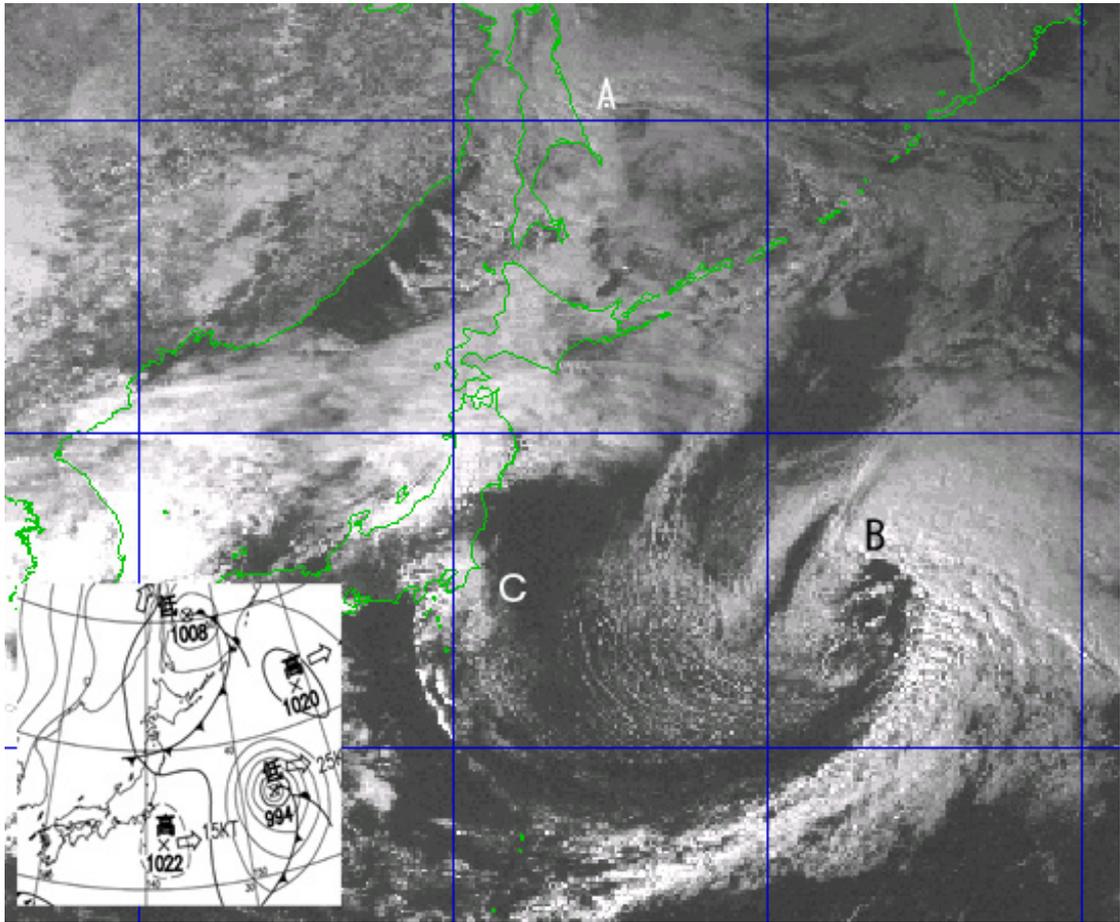


今月の気象衛星画像 (2005年2月)



2005年2月9日15時の可視画像と同時刻の速報天気図

どこかで春が生まれている(せめぎ合う冬と春)

2月は1年中最も寒い月だが、春の兆しがときおり顔を覗かせる。ここに掲載した画像はそんな春の兆しを捉えた一枚である。サハリンの東、画像上Aと表示した地点には上空約5,500mで-42℃という猛烈な寒気を伴った低気圧があり、日本海北部には寒気の吹き出しに伴う筋状の雲がみえる。Aにある低気圧から寒冷前線が東北地方にのびている。また、日本の東海上にはBと表示した地点に低気圧があり東に進んでいる。一方、関東の南東海上には高気圧があり、暖気がこの高気圧から東北地方にある寒冷前線に向かって吹き上がっている。この暖気の北上に伴う下層雲の列(C)が伊豆諸島から関東地方に向かってのびているのが見える。寒冷前線の南側にあたる仙台では9日の最高気温が3月中旬ころの最高気温である8.1℃まであがった。この陽気に誘われたのか仙台市の郊外ではネコヤナギが芽吹き始めたと地元紙が伝えていた。

(気象衛星センター)